



はすだね通信

第 70 号

県南農林事務所経営・普及部門(土浦地域農業改良普及センター) 令和6年 10 月

れんこんで、レンコンネモグリセンチュウ(以下、線虫)を防除できる農薬は2剤で、それぞれ特徴があります。使い分けたり併用することで、最適な使用ができます。

	石灰窒素	グランドオンコル粒剤
線虫の防除効果		
土壌中	○	○
植物体中 ※1	×	○
殺虫効果の持続性	×	○
線虫以外の病害虫等防除効果		
ジャンボタニシ	○	×
一年生雑草	○	×
殺虫効果の仕組み (RAC コード)	—	1A
肥料としての効果	○	×
水への溶けやすさ	高い	高い

※1 ハス体内への殺虫成分の吸収・移行。



効果的な使い方のポイント

- 薬害がなく、高い防除効果を得るために、使用から植え付けまでの期間は、石灰窒素は長く空けて下さい(夏で5日以上、夏以外で10日以上)。グランドオンコル粒剤は直前に使用します。
- グランドオンコル粒剤の使用量は、期待する効果を得るため、登録量を下回ることなく散布して下さい。使用時期は、植付前(但し収穫180日前まで)です。
- 石灰窒素とグランドオンコル粒剤は、併用が可能です(線虫を防除する仕組み・RACコードが異なる)。
- 短期的に黒皮症の防除効果が感じられない場合でも、原因となる線虫数の減少や、増加を防止できます。長期的な防除を行って下さい。
- 石灰窒素とグランドオンコル粒剤は、ともに水に溶けやすい農薬です。しっかり止水しないと殺虫成分がハス田から流れ出し、防除効果が低下します。
- グランドオンコル粒剤は、散布後速やかに土壌と混和して下さい。接触することで土壌に吸着され、防除効果の低下やハス田からの流れ出しを軽減できます。

農薬を使用する方は、必ず、使用する前にラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。また、農薬散布の際は、周辺作物等への飛散(ドリフト)に十分注意して下さい。

農薬登録確認日:令和6年10月2日